



とも育ちのぽけっと

～保育園ってどんなところ～

江戸川区保育の質ガイドライン



この冊子『とも育ちのほけっと～保育園ってどんなところ～』は、保育園にお子さんを預けている保護者の方や、これから預けようと考えている方、地域でお子さんを育てている方々に向けてつくりました。保育園ってどんなところなのか、子どもたちが育っていくために大事にしていることは何なのか。保育園での子どもたちのエピソードを通してご理解いただけるように構成しています。

もくじ



はじめに	P 1
ほいくえんの日 0・1・2 歳児	P 2
3・4・5 歳児	P 3
保育園ってどんなところ?	P 4
一人一人に合わせた関わり	
ごっこ遊び、だいすき! なんだろう、ふしぎだね	P 5
もう1回、やろう!	P 6
子どもの安心できる存在に	P 7
いつでも愛してもらえる心の支え	
子どもの権利が保障される場所	P 8
プライバシーと人権	
子どもの思いを受け止める 食べるの、だいすき!	P 9
子どもたちが楽しく遊ぶために	P10
自分のやりたいことを自分で決める	
散歩先で出会うたくさんしたこと	P11
共に育ちあうことを大切に	P12
地域の中で支える子どもたちの育ち	P13
地域の子育て拠点の役割を担う	

はじめに



江戸川区保育の質ガイドラインって、なあに？

江戸川区では令和 5 年 3 月に「江戸川区保育の質ガイドライン」を策定しました。

このガイドラインは育ちゆく子どもたちにとって大事なこと、保障していくべきことを、『子どもの権利』『愛着形成』『保育者の資質・専門性の向上』『保育内容』『環境』『健康及び安全』『配慮や支援を大切にした関わり』『連携』の 8 項目で記載しています。区内のどこの保育施設にいても、子どもの最善の利益が保障され、一人一人が自分らしく輝き成長していけるよう、保護者と保育者とが手を取り合っていくことを謳っています。

保育者は常に子どもの理解を深め、保育の質の向上を目指しています。

保育の専門性は日々の実践を通じて身につけていきます。愛情をもって子どもたち一人一人と関わり、何がしたいのか、何が大切かを考えて保育をしています。仲間同士で子どもたちの育ちについて語り、共有し、振り返りを行い、次に進んでいきます。園内研修や外部研修によって学びを深め、新たな知見に出会うことも主体的に行っています。一人一人違う子どもたちと真摯に向き合い、その育ちを支え、保護者とともに歩んでいきたいと願っています。そして「保育の質ガイドライン」はその道しるべとなっています。



これからの未来に向けて・・・

子どもの育ちを真ん中におき、家庭と園と、それらを取り巻く地域社会などが相互に繋がりがあい、健やかな育ちを支える社会。江戸川区の未来ビジョンでもある「ともに生きるまち」、その主人公である子どもたちが豊かに育つよう援助していきます。

※江戸川区保育の質ガイドライン

※ガイドラインサブノート「保育のぼけっと」



ほいくえんの一日

0・1・2 歳児

7:30

開園
順次登園

おはようございます。
ニコニコ笑って顔色も
いいですね。体調は
変わりないですか？



先生おはようございま
す。今日も元気です。
よろしく願います。

8:30

あそび
水分補給

一日の始まりです。笑顔で明るく挨拶し、保護
者が安心して預けられる様に心がけています。

12:00

食事

食事は落ち着いた雰囲気の中、
一人一人の成長発達に合わせ、
ゆっくりと丁寧に関わりが
ながら食を通して五感を育みます。



モグモグ
カミカミ
おいしいね

おひるね



おひるねは寝具や室内環境などに配慮し、
一人一人のペースを尊重しながら安心できる
ような関わりを大切にします。
また、安全・衛生面を常に考え乳幼児突然死
症候群の予防策として必ず保育者が顔色や呼
吸、身体の状態を見て触れて確認します。
0 歳児 / 5 分毎
1・2 歳児 / 10 分毎

15:00

おやつ

16:00

順次降園

おむつ交換やトイレで排泄するタイミングは
一人一人違います。保育者はその間隔を把握
し「さあ、おむつを取り替えて気持ち良くな
ろうね」等声をかけて交換します。

18:30

閉園

*年齢（月齢）やその時期の子どもたちの様子に応じて、それぞれの活動の開始時間は
異なります。

室内での遊びと戸外への散歩など、子どもたちの興味や関心に合わせて活動します。

3・4・5 歳児

7:30

開園
順次登園

登園時は「おはようございます」と朝の挨拶をしながら、お子さんの顔色や機嫌、体調などを確認します。

8:30

あそび
水分補給

ここに
トンネルつくて
みようよ

いいね！
もっと大きい
お山にしようか



子どもたちが遊びたい物や、やりたい事を見つけて遊ぶ時間や、散歩・ルールのある遊び・製作・楽器遊びなど、みんなで一緒に楽しむ時間の中で協調性や社会性を育てていきます。

11:30

食事

12:30

休息
おひるね

3歳児以降になると食事の準備や片付けを自分で行ったり、栽培やクッキング等、様々な食育体験を通して、食への関心を育てます。



15:00

おやつ

16:00

あそび

友達と大きな山を
作ったんですよ

すごいな
楽しそうですね

順次降園



お迎えの時には一日の様子をお話しします。体調の悪い時、いつもと様子が違ったときなどは丁寧に伝えます。

18:30

閉園

*毎日の保育園での生活の中で、徐々に一日の流れがわかり、自然と自ら見通しをもって行動する姿がみられるようになります。

*子どもたちの体力が付き、おひるねが必要なくなると、静かな遊びや休息などに切り替えていきます。

以上は「ほいくえんの一日」の一例です。開園時刻・閉園時刻（延長保育の有無）、保育時間の流れや休息等、おおよその内容は各施設によって異なります。

保育園ってどんなところ？

一人一人に合わせた関わり

0・1歳児の保育は一人一人の生活リズムや発達の特徴を理解して進められます。保育者は朝の受け入れの際に聞き取ったことや連絡帳に書かれている生活の様子などから、一人一人に合わせたその日の活動を組み立てていきます。

0歳児の保育室です。
ベッドで眠っているのはみどりちゃん。
午前中にひと眠りしたほうが、そのあとご機嫌でミルクを飲めるのです。

朝早くの登園だったあおくんは食事中です。
「もぐもぐカミカミ、おいしいね」と
伝えながら食事をすすめます。



ひと眠りしたきいちゃんは、元気いっぱいです。
お部屋で滑り台やマットの山を使って遊んでから食
事になります。

眠くてぐずってしまい、しっかりと食事がとれな
いことがないように、遊びと食事と睡眠のバランス
をとっています。

一人一人の生活リズムを整え、安心して遊べる環境を整えることが、心と体の安定を図るためにとても大切になります。



ごっこ遊び、だいすき！

2歳児クラスのままごとコーナーで、たろうくんとふゆちゃんが遊んでいます。

たろうくんはエプロンと三角巾をつけると、フライパンに小さなお手玉をいれハンバーグを作っています。ふゆちゃんはお人形でお世話遊び。弟がいるふゆちゃんは大人をしていることをよく見て真似ているのです。

子どもたちの大好きなごっこ遊び。日々の経験一つ一つが遊びの中で再現され、あこがれの人や様々な役割のある人になって、ちょっぴり大きくなった自分を楽しむ年齢です。実際にはできないことも、遊びの中でこそできることがあるのです。

3歳未満の子どもたちは日々の生活や遊びの中の人とのやり取りを通して、様々なことを学び身につけていきます。一人一人やり方も身につき方も、感じ方も違います。

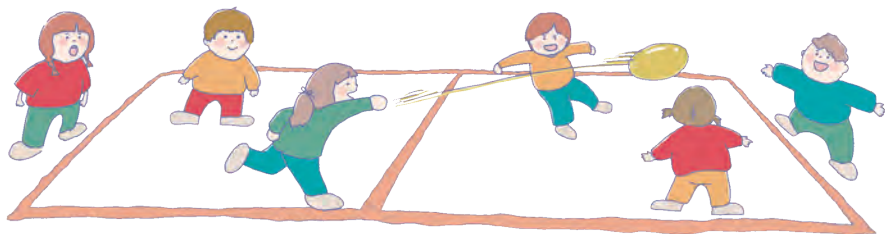


なんだろう、ふしぎだね

お散歩で虫をみつけた4歳児クラスの子どもたちがいます。さっそく名前が知りたくて図鑑で調べることにしました。何を食べるのか、飼育ケースには何を入れたらいいのか等、次から次へと知りたいことが増えてきて、飼育ケースと図鑑に釘付けです。

初めてのこと、不思議なこと、知らないことに出会ったとき、子どもの心が動きます。興味・関心を持って自分で調べたり発見することで知力（思考力や知識等）が育ちます。



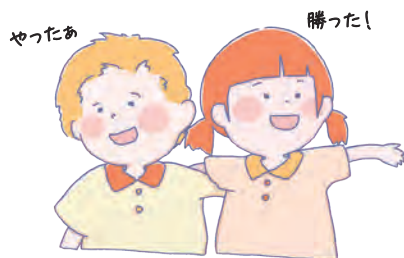


もう1回、やろう！

ドッジボールをしているのは一番大きい年長クラスの子どもたち。友達と一緒に楽しむルールのある遊びを通して色々なことを経験します。小さい頃から鬼ごっこ、しっぽ取り、わらべうた等、年齢に合わせて楽しむことができました。5歳になると自分たちで遊びを決め、準備し、組み立てていく力がついていきます。ルールがあるからこそおもしろいことにも気づいていきます。



子どもたちは遊びを通して勝った喜び、負けた悔しさを味わいます。その中で協調性や粘り強さ、リーダーシップや気持ちのコントロールといった非認知能力（テストなどの数値では測りにくく、生きていくための心の土台）を育てています。



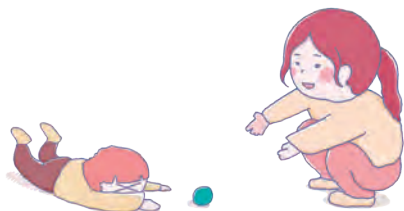
3歳以上児は身の周りのことが自分でできるようになり「やってもらう」から「自ら行う」ことが増えて見通しをもって生活するようになります。様々な経験を通して「やった！」「できた！」「もっとやってみたい！」気持ちを積み重ね、自己肯定感が育まれるように見守ります。

子どもの安心できる存在に

いつでも愛してもらえる心の支え

子どもはいつもそばで見守り助けてくれる人に対し、安心感を得ます。乳幼児期にこうした安心感の中で様々な遊びを経験し安定した愛着（アタッチメント）を形成することが大切です。

2歳のあきちゃんがボール遊びをしていて転んでしまいました。びっくりしたし、膝は痛いし、涙が出そうです。でも、すぐに先生が「痛かったね、だいじょうぶ」と、服についた砂を払い「ボールが転がっちゃったね。ほら、つかまえた」とボールとあきちゃんをぎゅーっと抱きしめてくれました。泣き顔だったあきちゃんに笑顔が戻り、先生からボールを受け取ってまた遊び出しました。



大人が共感的に関わり子どもの感情を言葉にする事で、子どもは自分の心の状態に気付くことが出来ます。好きな大人からいつも受け止めてもらえると、子どもは安心して安全基地である大人から、次の目標に向かってすすめます。



お子さんにとっての安全基地はお父さんやお母さん、身近にいる祖父母や保育者等で、不安や怖い時にくっついて安心を求めます。やがて振り向いたときに目を合わせることだけでも安心できるようになり、大きくなると近くにいなくてもその存在が心の支えになります。

子どもの権利が保障されるところ

子どもの権利を守ることは大人の責任です。子どもが今を幸せに生きるために、子どもに関係のあることを行う時には「その子どもにとって最もよいことは何か?」(子どもの最善の利益)を第一に考えています。

子ども自身が多くの人から大切な存在として受け止められていると感じ、自己を十分に発揮できるようにします。

プライバシーと人権

2歳児の保育室です。

子どもたちが遊んでいると、たろうくんがお漏らしをしてしまいました。パンツに移行した頃にはよくあります。遊びに夢中になってトイレに行くのが間に合わないこともあります。

おもらししちゃった



こっちでおさがえしようね



先生はたろうくんを友達から見えない場所(つい立てやカーテンを使用する)で着替えさせています。床はすぐに拭いて消毒をします。子どもの自尊心を傷つけないように工夫や配慮をしています。おむつを取り替えてもらっている赤ちゃんであっても、みんな同じです。

人は誰もが一人の人として権利をもち、尊重されなくてはなりません。

※江戸川区子どもの権利条例





子どもの思いを受け止める

先生と子どもたちが、今日はどこへお散歩に行くのか話をしています。みんな思い思いに自分の気持ちを伝えていますが、けいくんはみんなの顔を見ているだけでだまっています。

このような場面で自分の言いたいことを表現できない子どももいます。恥ずかしさや勇気がない等その理由は様々ですが、保育者はそんな姿も見過ごさず個別に話を聴いてみます。みんなの中で言えなくても思いがあることを受け止めて、その子に代わって思いや権利を伝えます。これを「アドボカシー」といいます。

「子どもの声を聴く」ということは、ただ子どもが発する言葉を聞く、その内容を聞くということではありません。子どもが表現している言葉やしぐさ、姿勢などからできるだけしっかりと深く、その子独自の思いや願いをわかろうとすることです。

食べるの、だいすき!

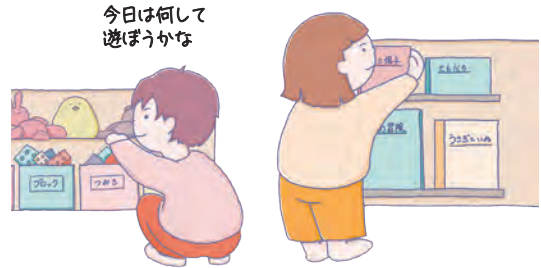
食事は全品配膳します。子ども自身が食べたい順番で、どうやって食べるのか自分自身で決めます(自己決定)。

食事マナーにこだわりすぎたり、完食を強要せず楽しい雰囲気の中で食べることで、栄養が体にも心にも行き渡ります。



子どもたちが楽しく遊ぶために

保育室は子どもたちが毎日遊び、生活する場です。保育者は安全面に配慮し、リラックスした温かい雰囲気の中で子どもが安心して過ごす環境作りをしています。



自分のやりたいことを自分で決める

3歳児の保育室です。登園して身支度をすませると遊具棚の前に行き、今日は何して遊ぼうかと遊びを選んでいきます。えどくんは木製の線路を出してつなぎ始めました。線路の上を汽車が走って大満足です。かわちゃんは先生に読んでもらったお気に入りの絵本を手に取り見始めました。ブロックで動物園を作っている中に、「いれて」と仲間入りする子もいます。



保育室には子どもの成長や興味に合わせた玩具・遊具・絵本を手の届く場所に適切な量を用意します。いつでも自由に発想し、豊かに遊び楽しむことで、自発性や自己肯定感が育ちます。

そして保育者も、子どもたちと一緒に遊びながら環境を整えています。幼児クラスになると「またこの続きをやろう」と遊びが継続していくことも多いので、作りかけの作品を置いたり、続きができる場を設けたりしています。

散歩先で出会うたくさんしたこと

子どもたちは園内だけでなく、戸外に出かけることでたくさん経験をします。

4歳児クラスの子どもたちが散歩に出かけます。出発前には友達と手をつなぎ、先生が人数確認をしています。「いってきま〜す」と園長先生に元気に挨拶して出発。車や自転車を気を付けて歩くことや、横断歩道では信号をみて安全確認をして渡る等、交通ルールを守る大切さを伝えます。

また、地域の人との触れ合いにより、園の中だけでは得ることができない経験をします。



1歳児クラスのお散歩です。

一人歩きが上手になり興味のあるものを見たり触れたりするのが楽しい時期です。地面をじっとみつめてアリやダンゴムシをみつけ大喜びです。

ダンゴムシを大事に手のひらにのせていたあいちゃん、帰る時にはつかまえた石の所へ戻してあげています。

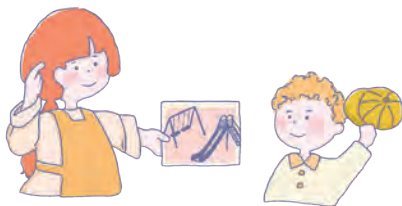
自然物に触れ、興味を持ち、身近な生き物(虫、草花、動物)にも命があることを知り、優しく接することを学んでいきます。



共に育ちあうことを大切に

3歳児クラスです。散歩に出かける準備をしている子どもたちですが、先月入園してきたジョンくんはまだ日本語がよくわかりません。

先生はジョンくんのそばに行くと、散歩先の公園の写真を見せ、出かけることを伝えていきます。頭に手をあてて帽子をかぶることをジェスチャーと言葉で知らせ、かぶると「OK!」とハイタッチをして、一人で帽子をかぶれたことを褒めています。



⇒保護者とは細かい内容も伝わるように、AI通訳機や翻訳アプリを使って情報を共有することもあります。

はるちゃんには食物アレルギーがあり、給食の除去対応が必要です。今日の献立にはアレルゲンを含む食材があるので、給食を運んできた先生はもう一人の先生とはるちゃんの給食内容について1品ずつ確認しています。アレルギー対応であることが視覚からもわかるよう、食器の色を替える、個別のトレイにのせる等、誤食を避ける工夫をしています。

⇒生活管理指導表をもとに、保護者と調理員と担任で献立の確認をし、対応を決めます。

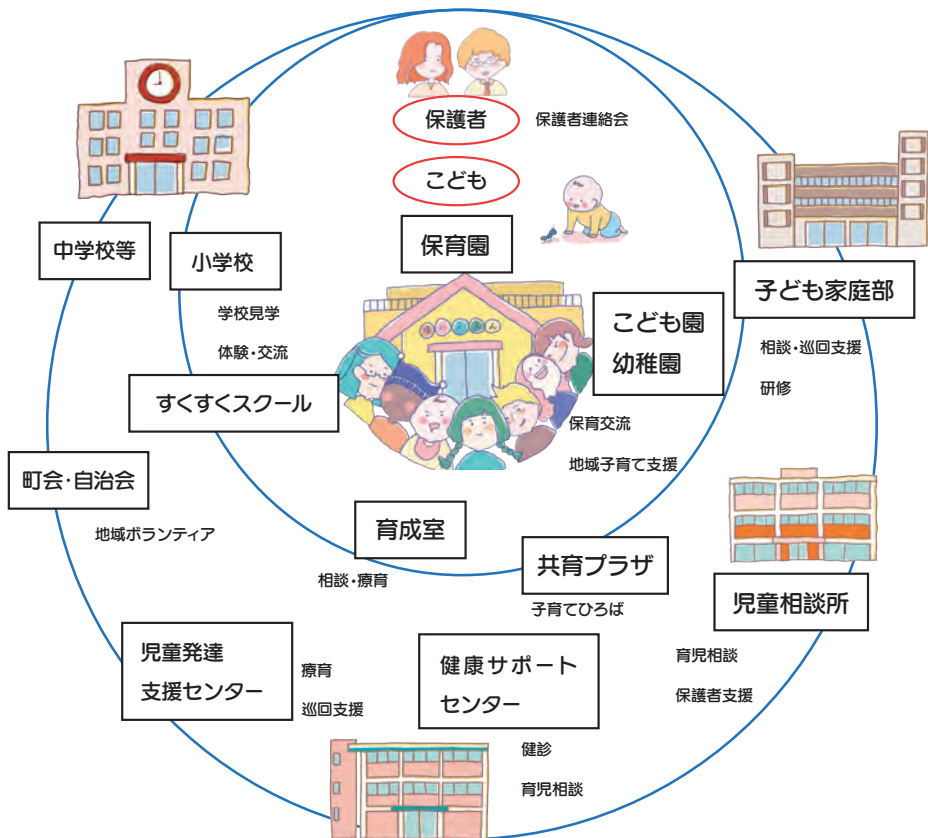
あきくんはみんなが集まる場所が苦手です。大勢の人の声が聞こえると大きな声を出したり、耳をふさいだりします。

先生がクラスの子どもたちと言葉遊びをしている時には、場所を移動し大好きな図鑑を見て過ごします。でも身体を使った遊びになると、図鑑を片付け、みんなと一緒に楽しめます。



家庭環境、言葉や文化の違い、成長過程や健康状態など、多様性を尊重し、どの子もその子らしく輝けるように一人一人に合わせ子どもの伸びゆく力や子育てを支えます。

地域の中で支える子どもたちの育ち



地域の子育て拠点の役割を担う

保育園では、近隣の親子が気軽に遊びに来てくれる場を設け、在園の子どもたちとの触れ合いや育児相談などを行っています。また、地域の園や学校等と日頃の保育や行事の際に交流を持つことは、子どもの経験が広がるだけでなく、大人も含めて繋がりあう機会となります。

小さな子どもたちが過ごす保育園では災害時に地域のご協力をいただくこともあります。

子どもたちが健やかに育つために、地域の関わりなど様々な機関と繋がりがあい、地域全体で充実した子育ての環境づくりをすすめ、連携していくことが重要です。

子どもを真ん中に、保護者、保育者、そして地域の皆さんと「ともに！」。

江戸川区保育の質ガイドライン とも育ちのぽけっと

発行年月日：令和6年3月

発 行：江戸川区

子ども家庭部子育て支援課

電 話：03-5662-5028

制 作 協 力：江戸川区保育の質ガイドライン

策定委員会作業部会

イラスト協力：おいもけんぴ

